



三中だより

中野区立第三中学校

第7号

平成28年11月10日発行

狼王ロボとの出会い

校長 齊藤 久

11月28日（月）から12月2日（金）まで、読書週間を実施します。図書委員会では、読書活動の活性化をねらいに全校生徒を対象とした「おすすめの本」紹介の企画を予定しています。

学力調査の結果から読書と学力とは相関関係があることが数年前に話題となりました。その頃から朝読を奨励する学校が増えました。三中でも8時25分から35分までの10分間、朝読書の時間を設定し読書活動の活性化に取り組んでいます。また、図書館指導員を配置し、図書室の蔵書管理や中学生が興味・関心が高いと思われる新刊本の購入にあたっています。

私は小学校の3、4年生の頃まで、本を読むことはあまり好きではありませんでした。しかし、小学校5年生の時に読んだ1冊の本との出会いから読書が好きになりました。その本とはシートン動物記の「狼王ロボ」です。シートン博士と狼の群れの王様ロボとのお話です。有名な動物シリーズですので、読まれた方も多いと思います。私が印象深いのはこの動物記の結末です。牧場の牛や羊を襲い人間を困らせていた狼王ロボを捕えたシートン博士は、ロボに狼王としての敬意を表し、水やえさを与えましたが、ロボは人間から与えられたものは口にせず、最後は餓死をしていますが、予想はしていたものの余りにも悲しい結末でした。また、ロボは今まで人間が掛けた罠には1度も捕まることがなかったにもかかわらず、罠（おとり）にされた白い毛の狼（ロボの妻）を助けるために人間に立ち向かっていったところは、最も感動的な場面です。人間が土地を開拓し、大自然の中で生活していた自然界の動物の命を奪う悲しい出来事がアメリカの大地で起きていたことについて知り、強い衝撃を受けました。知らない世界を知ることができる読書、本を読むことが好きなるキッカケを作ってくれたのが「狼王ロボ」でした。

中学校で私が所属した運動部の顧問の先生は学区域に1人暮らしをしていました。先生の部屋の本棚や机の上にはたくさんの本があり、まるで本の中で生活しているようでした。ある日、先生はその中から「齊藤、この本を読んでみるか？」と言い、1冊の本をプレゼンとしてくれました。題名は「無知の涙」著者は連続殺人犯の永山則夫です。著者が獄中で書いた本として当時、話題となった1冊でした。著者は勉強が苦手だったと綴っている中で、小学校の図工の先生に「絵が上手だね。」と言われた言葉が唯一、生涯の学校生活で先生から褒められた言葉だったそうです。学校に通っていた頃、勉学に励んでおくべきだったと悔恨の念が「無知の涙」から伝わってきました。

先日、私が電車の中で読み終えた本は、現在90歳になられた元お茶の水女子大学教授の外山滋比古先生の「50代から始める知的生活術」です。電子端末でも本を読める時代ですが、電車に乗る時は1冊の文庫本を今でも持ち歩いています。

今後の主な予定

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 11月11日（金）教育委員との対話集会 | 11月17日（木）薬物乱用防止教室 |
| 11月15日（火）定期考査（英・音・理） | 11月18日（金）国際理解教育研究発表 |
| 11月16日（水）定期考査（保体・技家・数） | 11月22日（火）2年生職場体験～25日 |
| 11月17日（木）定期考査（国・美・社） | 11月30日（水）オリンピック講話 |
| | 12月10日（土）学校公開 |

合唱祭

音楽科 寺林 由紀恵

10月25日、三中の「三大大行事」のひとつである合唱祭が、練馬文化センターで行われました。

「奏 ～君だけの声を聴かせてよ」というスローガンのもと、ホールに感動の歌声が響きました。

今年度は会場の変更もありましたが、現在の三中の良さを生かすために、いくつかの新しい試みがありました。まずは課題曲による学年合唱をなくしたことで、各クラスの個性的な表現の違いを味わうことができました。また、有志合唱「歌い隊」の発表では、代表生徒による洗練された歌声を披露することができました。そして全校合唱では、生徒全員がステージに立って一緒に歌うことができました。全校生徒の声ホールに力強く響き、小規模校ならではの一体感も感じることができました。

本番までの取り組みとして、通常の音楽の授業の他に、総合的な学習の時間の取り組みや、2つの学年の合同授業、そして縦割りの交流会等を行ってきましたが、実行委員や指揮者、伴奏者、パートリーダーが中心となり、自主的に意欲を持って取り組んできました。上級生は教えることを通しての成長があり、下級生はあこがれの気持ちで意欲が高まっただけでなく、優しいアドバイスや変声期についての体験談を聞くことで、安心感も得られたようです。

本番を迎えるにあたっては、生徒たちが各方面で努力を重ねてきました。夏休み前から練習を続けてきた指揮者や伴奏者をはじめ、クラスの雰囲気盛り上げ、練習方法を工夫してきた実行委員も、多くの悩みを乗り越えてきました。後日の作文から感じられたのは、他の多くの生徒が、それを知っていて、感謝の気持ちを持っていることでした。合唱祭を通して、歌い合うことの喜びを味わうだけでなく、クラスや学年、そして学校全体でのまとまりと心温かな成長がありました。生徒たちが達成感や満足感を持って行事を終えられたことをとても嬉しく思います。支えてくださった全ての皆様に心から感謝申し上げます。

1 学年

課題曲「ぼくらの世界」

A組「Song is my Soul」

B組「地球の詩」



2 学年

課題曲「時の旅人」

A組「大切なもの」

B組「時を越えて」



3 学年

課題曲「聞こえる」

A組「あなたへ

～旅立ちに寄せるメッセージ」

B組「言葉にすれば」



文化的行事発表 ・理科（区理科研究発表会）・英語部（英語学芸会）・吹奏楽部（区連合音楽会）



理科



英語部



吹奏楽部

有志合唱「歌い隊」

「夢の世界を」
「この地球のどこかで」
「翼をください」
（+教員合唱）



全校合唱 「南風」



マナー講座

2 学年 高橋 美保子

職場体験事前学習の一つとして11月8日（火）6校時マナー講座が開かれました。講師の江上いずみさんは客室乗務員として皇室の専用機にも登場されたことのある方です。

視覚からのマナーとして表情、態度、身だしなみについて。また、聴覚からのマナーとして言葉の使い方についてたくさん具体的な例を挙げて説明がありました。でも、最後の決め手は「相手に喜んでもらいたい気持ちをどう伝えていくかで決まる。」ということでした。

江上さんの使用した資料には三中の校舎や教育目標、周辺のお店の画像がたくさんありました。これは講演をより身近なものとして、生徒一人ひとりに受け取ってもらえたら・・・という江上さんの「おもてなし」の精神だと感じました。

22日より2年生は各事業所で3日間の職場体験に出かけます。事業所によって求められるマナーは少しずつ違うかもしれませんが、マナーは、「人に嫌な思いをさせない」という思いやりの気持ちから生まれた暗黙の礼儀作法だといわれます。一生懸命考え、その場に一番適した振る舞いで、さわやかな印象を残していきたいと思います。

最後に、「OMOTENASI」という言葉が通訳なしで理解されるようになった現在、「尽くし上手、尽くされ上手な日本人になって2020年のオリンピック・パラリンピックを迎えてほしい」という言葉が印象に残りました。



2年生 ふれあい教室

養護教諭 中角 友紀

1月5日(土)に、地域のみなさん、城山ふれあいの家さくら館の協力で今年もあかちゃんとのふれあい教室を開催しました。生徒達は事前学習として、「美しい母の顔」という道徳の授業を通し、親の愛情、親への感謝、命の尊さ等について考えたり、自分の生まれた時の身長や体重を聞いたりして、当日に臨みました。

生徒たちは4グループに分かれ、まずお人形のあかちゃんを使って、抱き方の練習をしました。「意外と重い…」、「どこを持ってばいいの?」と苦戦している生徒もいれば、兄弟のお世話をしている初めから上手に抱っこできる生徒もいました。

16名のあかちゃんとお父さん、お母さんにご参加いただき、あかちゃんたちが体育館に入場すると、一瞬にして生徒や参観者が笑顔になりました。人形では上手に抱くことができている、実際にあかちゃんを抱いてみると、「動くから難しい」、「緊張する」等と恐る恐る抱っこしている姿や柔らかい表情であかちゃんとふれあっている姿は、とても微笑ましく、印象的でした。

最初は、緊張気味だった生徒たちも、だんだんと自分からあかちゃんたちと積極的にふれあったり、ご両親に質問したりしていました。なかなか自分の親には聞けないことも、今日来ていただけたご両親から様々なエピソードを聞く中で、自分の幼かった頃を振り返り、今まで大切に育ててもらった両親へ

の感謝の気持ちに気づけたようです。実際に様々な家族とふれあう体験を通じて、普段小さい子と接している生徒もそうでない生徒も、それぞれ小さな子を愛おしむ気持ち、親の愛情や責任、命の尊さといったことを改めて感じたり、考えたりできたようです。

あつという間の時間でしたが、実際に、様々な家族とふれあう体験を通じ、小さな子をいとおしむ気持ち、親の愛情や責任、命の尊さといったことを改めて感じたり、考えたりできたとても貴重な機会となりました。

ふれあい教室について家でも話題にしてもらい、あかちゃんの頃のエピソードや名前の由来等について話してもらえればと思います。

ふれあい教室を通しての生徒の感想を抜粋していくつか紹介します。

〇ぼくは、今日の授業であかちゃんにさわってみて、思ったより重さがあり手足が小さくおとなしかったです。はじめてこんなにふれあうことができ、とても楽しかったです。そして、改めて命の大切さ、親のすごさ、大変さを学ぶことができました。ぼくは、泣いてしまったあかちゃんをすぐに泣きやますことや一日中あかちゃんの世話をすることがあたりまえのようなことだと思っていたけれど今日体験してすごいことなんだなあと感じることができました。

〇人形で練習した時は、意外と重くて驚きました。数字で聞く3kgと本当に持って感じる3kgはまったく違いました。でも、ゴム製だったので本物のあかちゃんの感じはわかりませんでした。初めてだった時、ひふはやわらかいし、かみの毛もまだほわほわしていました。でもすぐに泣き始めてしまって少し混乱しました。横にゆらしてみてもおもちゃを見せてみても何も変わらず「どうしよう」という気持ちでいっぱいでした。でも、パパさん、ママさんに渡すと一瞬で泣きやんでいました。「やっぱり安心するんだ」と思ったのと同時に「親の愛ってすごいな」とも思いました。今回の体験はいつか将来の役に立つと思うので、忘れないでいようと心の中で決めました。今日は本当にありがとうございました。

